

## 第60回試験研究成果発表会（野菜Ⅰ・作物Ⅰ）発表概要

【日 時】 令和4年11月30日（水）13:00～16:30

【場 所】 いいおかユートピアセンター（旭市横根 1365-25）

### 発表1 情報提供

炭酸ガス施用の効果を高める促成キュウリの環境制御

野菜研究室 大木 浩

最近、キュウリ栽培では炭酸ガス施用技術が改めて見直され、施用機器を導入する生産者も増えつつあります。しかし、炭酸ガスは単に施用すれば良いのではなく、効果の高い施用を行うには適切な環境制御も合わせて必要です。そこで、県内で栽培面積が多い促成キュウリのつる下ろし栽培を例に、炭酸ガス施用時の温湿度の調節や草勢管理の考え方について解説します。



促成キュウリ栽培



気温は通風筒を用いて正確に測定

### 発表2 成果発表

ハウス抑制トマトの優良品種の選定（第72回全日本野菜品種審査会）

～黄化葉巻病に強く、多収の新品種～

野菜研究室 橋本 奈都希

第72回全日本野菜品種審査会において、抑制トマトの優良品種の選定を行いました。選定された優良品種は、「TY みそら 109」、「19K974017」、「C9-178 (SC9-178)」、「はれぞら」、「AS-379」の5品種です。黄化葉巻病に耐病性を有し、収量性に優れた各品種の特徴を紹介します。



1等特の「TYみそら109」



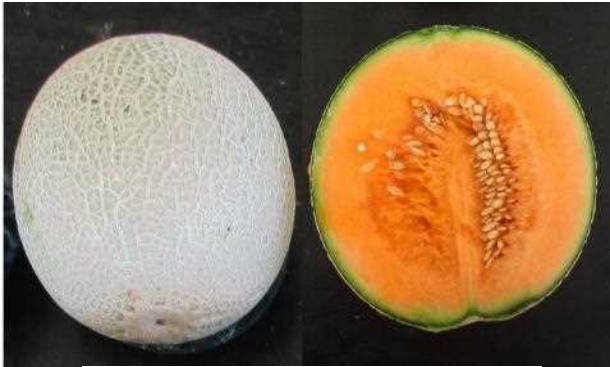
収穫物審査

### 発表3 成果発表

#### 盛夏どりメロンの高温対策技術

水稲・畑地園芸研究所 東総野菜研究室 鈴木 結花

東総地域のメロン栽培では、5月下旬から7月中旬にかけて高品質な果実を収穫・出荷しており、市場からは出荷期間の拡大が望まれています。しかし、7月中旬以降の収穫では気温の上昇や日射量の急激な増加に伴う萎れの発生で、正品率や品質の低下が問題となっています。そこで、7月中旬以降に収穫可能な赤肉メロン品種の選定、青肉メロンでの萎れ軽減方法を紹介します。



赤肉メロン「夏のクインシー」  
(横浜植木(株))



白黒ダブルマルチによる収穫時の萎れの抑制  
左：グリーンマルチ(慣行)  
右：白黒マルチ

### 発表4 情報提供

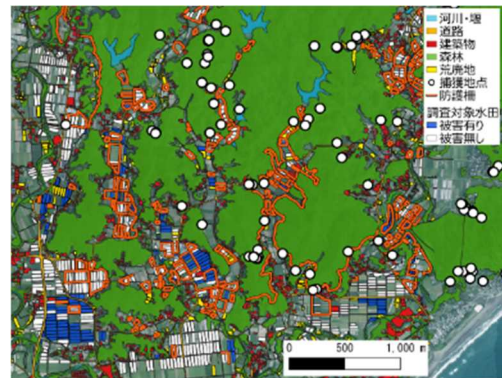
#### イノシシ被害発生の要因となる景観構造 ～事前に行う有効な対策とは～

暖地園芸研究所 生産環境研究室 内田 耕陽

イノシシ被害対策として、①生息環境の管理、②防護柵の設置、③捕獲が有効とされていますが、全ての圃場に対策を行うのは労力とコストがかかります。そこで、令和元年～3年に南房総市で行った水稲のイノシシ被害調査の結果から、被害の出やすい圃場周辺の景観構造を整理し、対策を優先すべき圃場の環境要因を明らかにしたので紹介します。



山に生息するイノシシの群れ



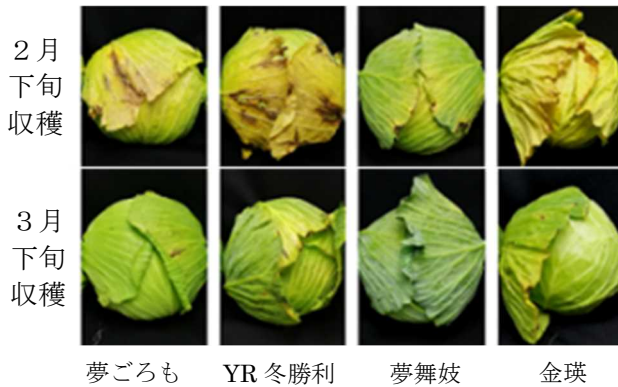
景観構造とイノシシ被害地点マップ

**発表5** 情報提供

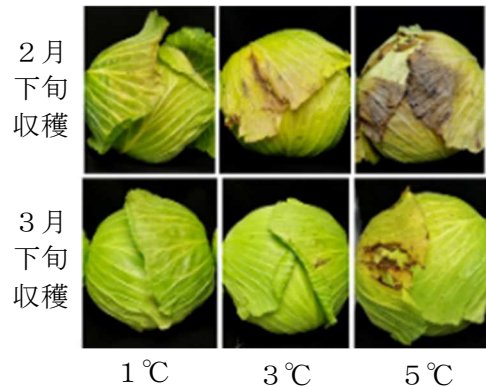
加工・業務用キャベツの端境期出荷に対応した貯蔵技術の確立

流通加工研究室 松本 浩平

加工・業務用キャベツは抽台株の発生などから4～5月の収穫が難しく、端境期となっています。そこで、2～3月に収穫した加工・業務用キャベツを4～5月に出荷するための適切な貯蔵条件について調査しました。試験の結果から明らかになった貯蔵条件（適した品種、温度等）について紹介します。



品種別の貯蔵後（5月上旬）の様子



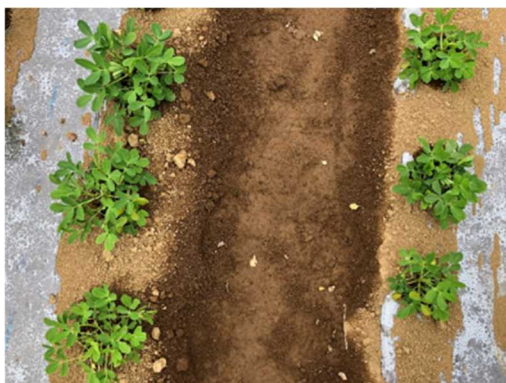
貯蔵温度別の貯蔵後（5月上旬）の様子

**発表6** 成果発表

「おおまさりネオ」と「Qなっつ」を活用したゆで落花生の栽培技術

落花生研究室 青柳 伸之介

ゆで落花生は収穫から調製・出荷までの作業時間が限られているため、切れ間なく出荷していくためには播種及び収穫を計画的に進める必要があります。そこで、近年育成されたゆで豆用極大莢品種「おおまさりネオ」及び主に煎り莢用として栽培されており、ゆで豆用としての利用が期待されている「Qなっつ（登録品種名「千葉P114号）」について、ゆで豆用生莢を9月から10月にかけて、安定して連続的に出荷するための栽培方法について紹介します。



（品種：「おおまさりネオ」、左：べたがけ被覆有り、右：べたがけ被覆無し）



## 発表7 成果発表

### 作型に応じたニンジン根部しみ病害（乾腐病・しみ腐病）の防除手段

病理昆虫研究室 青木 由

千葉県のカニンジン栽培では、乾腐病としみ腐病による根部しみ症被害が問題となっています。いずれの病気も土の中の病原菌が原因ですが、土壌消毒だけでは被害を十分に防ぎきれないケースがあります。そこで、秋冬どり栽培における乾腐病の発生しにくい品種を明らかにしました。また、春夏どり栽培では、土壌消毒を実施し、病気の発生しにくい品種を選んで播種時期をずらすことでしみ症被害を軽減できることを紹介します。



乾腐病による激しい裂開症状



両病害に共通するしみ症状

## 発表8 情報提供

### 秋まき冬どりダイコンの根重予測モデルの開発

最重点プロジェクト研究室 小林 孝太郎

秋まき冬どりダイコンは、栽培期間中の天候不順の影響により生育が停滞し、計画的に出荷できないことが問題となっています。そこで、日平均気温等の気象データと根重に関する生育データを用いて、ダイコンの収穫時期を予測する技術の確立に取り組んでいます。今回は県内全域で作付けされている「冬自慢」の根重予測モデルを作成したので紹介します。



収穫時期のダイコン



肥大とともに根部が地面から持ち上がる（抽根）